

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00537

研究課題名(和文) 諸言語における動詞「なる」の生態研究—&lt;スル&gt;/&lt;ナル&gt;的言語という対立を背景に

研究課題名(英文) A crosslinguistic study of the ecology of the verb 'naru' -- with special reference to the typological contrast between 'DO-language' and 'BECOME-language'

研究代表者

池上 嘉彦 (IKEGAMI, Yoshihiko)

東京大学・大学院総合文化研究科・名誉教授

研究者番号：90012327

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は「なる」という日本語動詞の生態を、それが経てきた歴史的な時空の中で検討する一方で、世界の他の言語における「なる相当動詞」の存在/非存在の確認、存在する場合は日本語の「なる」の場合といかなる生態上の異同があるかを確認することから始めた。その結果、日本語の動詞「なる」は本来<出現・出来>と<移行・推移>の両面の意味を有していたのが、現在では<移行・推移>の意味中心に変貌していること、同時に本来<出現/出来>を<自発=自然生起>として受けとめていたのが<自然=(人による)制御不能>として<推移>/<移行>を受けとめるという傾向が進んだことが確認できた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

現代の日本語話者にとって、「なる」という動詞はごく身近な存在である。「大きくなる」、「暖かくなる」、「美しくなる」など<状態の変化>を表示するのがその基本的な用法と誰もが感じる一方、「結婚することになりました」などと非日本語話者なら<強制>と読み取るような場合とか、「こちらがご注文の品になります」といったぎこちない言い回しなど、第三者的な立場で見ると<奇妙>としか聞こえないような表現に至るまで、必要以上と思えるような用法にまでも拡がっている。そのような変遷にどのような背景があるのか、日本語を遡る一方で、他の多くの言語との対比でその生態を探ろうとするものである。

研究成果の概要(英文)：The Japanese verb 'naru' has been used from the time of the ancient documents

down to the present, always with such high frequencies that it may well be regarded as one of the basic words in the vocabulary of Japanese. It does not cease to develop new meanings even today. This research project aims to examine the uses of 'naru' (and its semantically close verbs in other languages) in the contexts of their historical dimensions as well as in the contexts of their crosslinguistic dimensions. We have confirmed that the Japanese 'naru' started with a very similar semantic structure to its equivalents in the Altaic language family (like Mongolian and Turkish), semantically covering both 'emergence' and 'transition' (like 'werden' in German and Old English 'weorþan') but that it has markedly shifted its semantic focus to 'transition' with the result that the verb 'naru' in Japanese now behaves like French 'devenir' and Modern English 'become'.

研究分野：言語学

キーワード：なる ある 日本語 出来(しゅったい) 推移 自発 非動作主 事態把握

### 1. 研究開始当初の背景

日本語の動詞「なる」は、万葉・記紀など日本語の最古期の文献から、<出現>、<生成>、<成就>、<推移>、<移行>などの意味合いで、それなりの頻度をもってその用法が確認できる。その後も敬語的な用法を発達させたほか、現代でも断定を避ける<婉曲的>な感じを添える便利な語としてなお新しい用法を生み出すことを止めない。10世紀から11世紀にかけてのある文献調査では、動詞「なる」の使用頻度は「あり」(be)、「言ふ」(say)、「見る」(see, look)、「す」(do)、「く」(come)という5個の動詞に次いで第6位であるとのこと。そして、試みに『源氏物語』の「桐壺」の巻について原文とその最新の林望による「現代語訳」を対比してみると、後者での使用頻度は原作の場合の4倍強、さらに著名な谷崎潤一郎の少し古い訳では原作の8倍弱にも及ぶ。現代の話し言葉では、その使用頻度は「いる」と「ある」の間あたりという報告もあり、歴史的に見ても、日本語の基礎語彙の一つであり続けてきたことは間違いない。

### 2. 研究の目的

本研究は、世界の諸言語にも日本語の「なる」に相当する動詞がどの程度あるのか、そして、存在する場合はそのような動詞の生態は日本語における「なる」の生態とどの程度の類似、ないしは異同、が見られるのかを(それぞれの場合の文化的な伝統に配慮しつつ)確認することを意図し、科研費・基礎研究(C)16K00217(代表:守屋三千代)と並行してなされたものである。また、日本語の古い文献を手掛かりに「なる」がどのような意味変遷を経て現在に至っているのかを併せて言語学、特に認知言語学の観点から捕えようとするものである。

### 3. 研究の方法

諸言語における「なる」相当動詞が存在するか、しないか 存在する場合は、想定されうるさまざまな用法について確認する、存在しない場合は、どのような代替表現で対応するかを述べてもらう、こういう形での数十項目にわたる共通アンケートを用意して、インフォーマントにまず答えてもらう。アンケートの回答を検討した上で、研究担当者が対面で回答者に直接必要な点について質問し、返答を得る。調査者は言語学専攻者、インフォーマントは当然、対象言語の母語話者であるが、筆者自身が担当した言語(チェコ語、リトアニア語、ルーマニア語、ブラジル・ポルトガル語、ハンガリー語、ハンガリー語・トランシルヴァニア方言、バスク語)の調査では、日本語とバイリンガルの人物(例えば、大学で日本学や日本語教育担当の人物)が見つかる場合は(日本語との微妙な意味のずれにも気づいてもらえるよう)優先的に依頼するようにした。

調査の際に使用した共通アンケート(作成:守屋三千代)を以下に示す。(本報告書紙数制約のため、アンケートのスペース部分は省略して掲載)

\*\*\*\*\*

類型論を視野に入れたナル表現研究会:調査項目:お名前

以下について、先生ご担当の\_\_\_\_\_語の場合について、教えてください。

まず実際の表記でお答え下さい。次に、ローマ字表記の下に日本語の逐語訳を添えて、最後に和訳を書いて下さい。

例:トルコ語:Ben Türkçe öğreniyorum.  
ローマ字:Ben Türkce ogren -iyor -um.  
逐語訳:私:一人称代名詞 トルコ語:対格 習う:語幹 -現在形接辞 一人称接辞  
和訳:私はトルコ語を習っています。

#### 1. ナル表現

0. はじめに、次の質問にお答え下さい。

1. ナルに相当する動詞がありますか?  
相当動詞があれば、教えてください。複数ある場合は、全て教えてください。
2. ナル相当動詞がある場合、一般にどのような格をとりますか? [格の名称未定]  
(日本語:ガ格[実ガナル]、二格[春ニナル]、ガ格+二格[子どもガ大人ニナル]、ガ格+ト格[塵も(ガ)積もれば山トナル]、ガ格+カラ格[論文は3章カラナル])
3. 存在はどのような語(品詞)で表されますか?(日本語:アル)
4. 非存在はどのような語(品詞)で表されますか?

(日本語：ナイ：形容詞・イナイ：動詞非定形) \*ナクナル・イナクナル

5. ナル表現は自然出来的な表現ですが、丁寧さの表現にも関わりますか？  
以下、上例をご参考に、翻訳をお願いします。

1. 「今年は、ぶどうがたくさんなりました」  
「ナル」相当動詞を使って言えますか？ その場合、名詞「ぶどう」は何格ですか？
2. 「来月、彼らの子どもが生まれる / 彼らに子供が生まれる / 彼らは子どもを持つ」  
それぞれ言えますか？ どれが好まれますか？ ナル相当動詞が使えますか？
3. (大学で)「(あなたは)明日も大学にいる？」  
どのように言いますか？ ナル相当動詞を使って言うことができますか？
4. 「春になった / 春がきた」  
それぞれ何と言いますか？ どちらが好まれますか？ 使い分けがありますか？
5. 「新社屋がなる」「研究がなる」  
このような人為による完成の表現がありますか？ ナル相当動詞を使いますか？
6. 「氷が解けて水になる」  
何と言いますか？ ナル相当動詞が使われますか？ 使う場合、「水」の格は何ですか？
7. 「掃除をして、(私の)部屋がきれいになった」  
何と言いますか？ ナル相当動詞を使いますか？
8. 「子どもたちが寝て、静かになった」  
何と言いますか？ ナル相当動詞を使いますか？ 「静かになった」の主語は何ですか？
9. 「トマトが赤くなった」「信号が赤になった」  
それぞれどのように言いますか？ 使い分けはありますか？
10. 「赤ちゃんが歩けるようになった」  
何と言いますか？ ナル相当動詞を使いますか？
11. 「塵も積もれば山となる」「なるようになる」「なせばなる」  
このような表現がありますか？ ある場合、「ナル」相当動詞を使いますか？
12. 「家族が急病になったので、帰国することになりました」  
何と言いますか？ 両方ともナル表現を使いますか？ 「帰国します」とどう違いますか？
13. 「今日は市役所に行かなければならない」  
何と言いますか？ ナル相当動詞を使いますか？
14. («このアイス、食べても良い?») («食べては)いけません») («食べても)いいです」  
上の許可求めに対する返事に、ナル相当動詞を使うことができますか？
15. 「大きくなったら、パイロットになりたい」  
何と言いますか？ 両方ともナル相当動詞を使いますか？
16. (病人へ)「早くよくなってね」  
ナル相当動詞を使って表現できますか？ 三人称命令形を使うことが可能ですか？
17. 「世話にナル」「厄介にナル」  
このような行為を受ける表現をナル相当動詞を使って言うことができますか？
18. 「お(出で・尋ね)になる」「ご(覧・歓談)になる」  
このようなナル相当動詞を用いた敬語形式はありますか？
19. (初対面の人に)「お名前は何と言いますか？」  
ナル相当動詞を使ってこのような言い方ができますか？ 丁寧な表現ですか？
20. (居酒屋で)「こちら、生ビールになります」  
何と言いますか？ ナル相当動詞を使って言うことができますか？ 丁寧ですか？
21. 「この本は三つの章からなる」「この会は学生と父母、および教員からなる」  
このように内部構成を言うナル相当動詞の用法はありますか？ 何と言いますか？
22. 「完成する」「成功する」「当選する」「混乱する」  
このような場合、スル相当動詞で言いますか、それともナル相当語で言いますか？
23. 「頭痛がする」「安心する」VS「病気にナル」「不安にナル」  
このようなスル相当語とナル相当語の使い分けがありますか？
24. 「顔が真っ赤になる」「顔を真っ赤にして怒る」  
「足が棒になる」「足を棒にして歩く」  
このように付帯状況では「ナル表現」でなく「スル表現」を使う現象が見られますか？
25. 「なり(姿・形)」「道なり」「手なり」  
このようなナル相当動詞から作る名詞がありますか？ どんな例がありますか？

## 2. 事態把握

\* 事態把握：母語話者が発話に先立ち、これから言語化する事態を現実世界から切り取る、その切り取り方。話者には主観的な事態把握の傾向と客観的な事態把握の傾向がある。  
一般に日本語話者には主観的把握の傾向、英語話者には客観的事態把握の傾向がある。  
主観的把握の傾向とナル表現の志向性との間に相関がみられるかも、検討課題とする。

0. はじめに、次の質問にお答え下さい。

1. 通常の会話では、日本語のように「私」「あなた」などの人称代名詞を用いない傾向が見られますか？ また、述語に付く人称接辞はありますか？
2. 日本語の終助詞のような形式はありますか？
3. 呼ばれた時、「(すぐ)行きます・来ます」, どちらのタイプの動詞を使いますか？
4. 授受動詞の補助動詞用法(～シテ・クレル・アゲル・モラウ)が使われますか？
5. 膠着語、孤立語、屈折語、抱合語のいずれに属しますか？

1. 「ここはどこですか / 私はどこにいますか？」  
どちらが一般的な言い方ですか？ どちらも言える場合、使い分けはありますか？
2. (図書館で勉強していて、ふと気づいた時)「あ、誰もいない」  
何と言いますか？ 「私以外誰もいない」という表現は不自然になりますか？
3. (新幹線で)「あ、富士山が見える / 富士山だ」  
それぞれ何と言いますか？ 「私は富士山を見る」という言い方はしますか？
4. (思いがけない場所で思いがけない人に会って)「(あなた、)なぜここにいるの？」  
何と言いますか？ 何があなたをここに運んだの？という言い方もありますか？
5. (交番で)「(私は)財布を盗まれました / 私の財布が盗まれました / 誰かが私の財布を盗みました」  
どの言い方が一番よく使われますか？ どのように言いますか？
6. 「昨夜は家の近くで工事が始まって / 工事を始められて / 工事を始めて、眠れませんでした」  
どの言い方が好まれますか？ 具体的にどのように言いますか？
7. 「この薬を飲めば、気分が良くなるでしょう / この薬が気分を良くするでしょう」  
それぞれの言い方が可能ですか？ 好まれる言い方はどのような文ですか？
8. 「やっと(私の)卒論のテーマが決まりました / (私は)卒論のテーマを決めました」  
どちらの言い方が好まれますか？ 両方言う場合、使い分けがありますか？
9. 「おはよう。良いお天気だね」「そうだね」  
それぞれどのように言いますか？ 上の両方の「ね」に近い形式が使われますか？
10. 「早く来て!」「いま行く / 来るよ」  
それぞれどのように言いますか？ この場合の「よ」のような形式がありますか？
11. 幼稚園の先生「良い子はみんな帰りましょう」園児「ちゃん、一緒に帰ろう」  
どのように言いますか？ このような「～しよう」という表現がありますか？
12. 「明日のパーティ、一緒に行かない?」「はい、ぜひ!」  
どのように言いますか？ このような「～ない」という表現がありますか？
13. 「泣けるマスカラ」  
これは、どんなに泣いても流れないマスカラという意味です。この形式で訳せますか？  
日本語がわかれば、外国語母語話者でも、見てすぐに意味がわかるでしょうか？
14. 「モテメイク」「モテ色」「モテヘア」  
これは、この「メイク・色・ヘアスタイル」を選ぶとモテる、という意味です。  
日本語がわかれば、外国語母語話者でも、見てすぐに意味がわかるでしょうか？  
この形式で訳せますか？
15. 「従って、次のような結論になると思われる」  
「～結論になる」「思われる」のような言い方は、論文でよく使われますか？  
実際にどのように言いますか？

\* 国境の長いトンネルを抜けると雪国だった。(川端康成『雪国』冒頭)  
何と言いますか？ ナル表現を用いますか？  
この文を翻訳する時、ご自身はどこからこの事態を見ていると感じましたか？

以上

\*\*\*\*\*

科研費の執行は、その当初から新型コロナ感染の世界的規模の急速な拡大のため大きな影響を受けた。元々予定していたインフォーマントとの直接対面による調査のための出張はすべてキャンセルせざるを得なくなった。そのため、渡航費として予定していた金額が未消化のまま越年、以後1年の使用期間延長の承諾が得られたものの、その間の感染状況は解消までにはいならず、規定により可能な用途変更を考慮せざるを得なくなり、基本的には文献収集のための書籍購入とONLINE会議などに必要な器具の更新に充当した。

#### 4. 研究成果

本研究の成果として刊行予定の書物は、『「ナル的表現」をめぐる通言語的(crosslinguistic)研究 認知言語学と哲学を視野に入れて』と題された四百頁余りの大著である。

- 第1章「ナル的表現の現在」では、「調査項目の分析」、「ナル的表現とは何か 出来、存在、変化の観点から考える」、「『星の王子さま』から見えること」などの項目、
- 第2章「世界のナル表現」では、日本語（現代語と古語）、朝鮮語、モンゴル語：ハルハ方言、モンゴル語：チャハル方言、ヤクート語、ウイグル語、カザフ語、トルコ語、中国語、ゾゾ語、ベトナム語、ペルシア語、クルド語、シンハラ語、アラビア語、ロシア語、ポーランド語、ドイツ語、ウーリ語、フランス語、<sup>②①</sup>チェコ語、<sup>②②</sup>リトアニア語、<sup>②③</sup>ルーマニア語、<sup>②④</sup>ポルトガル語（ブラジル）、<sup>②⑤</sup>ハンガリー語、<sup>②⑥</sup>ハンガリー語：トランシルヴァニア方言、<sup>②⑦</sup>バスク語、<sup>②⑧</sup>英語、についての共通アンケート調査の結果考察
- 第3章「ナル的表現の言語学的考察」、
- 第4章「なる的表現の哲学的考察」、
- 「あとがき」

という構成になっており、この種の記述、考察としては類書の見当たらないものである。筆者による執筆部分は、第2章「世界のナル表現」中の8言語（<sup>②①</sup>チェコ語、<sup>②②</sup>リトアニア語、<sup>②③</sup>ルーマニア語、<sup>②④</sup>ブラジル・ポルトガル語、<sup>②⑤</sup>ハンガリー語、<sup>②⑥</sup>ハンガリー語：トランシルヴァニア方言、<sup>②⑦</sup>バスク語、<sup>②⑧</sup>英語の言語記述考察の部分、第3章「ナル的表現の言語学的考察」中の「ナル的表現」の事態把握」と題した論考、および「あとがき」である。

しかし、書籍の刊行については困難が連続した。出版を引き受けたひつじ書房からは、当初2022年秋には刊行可能と聞かされていたが（原稿提出は2022年春）校正直前になって出版社側の仕事が停滞。その後初校が何とか終わった2023年春の段階では2023年度内の刊行との連絡があった。しかし再度停滞して、現在では2024年末までには刊行との連絡を受けている。ひつじ書房は言語学関係を専門とする大手出版社であるが社内の事情については与り知ることができないので、出版社側の善処と作業進展に期待するほかない。

本研究を通して確認された日本語動詞「なる」の生態に関しての特徴としては、それは当初<出現/出来>と<移行・推移>の両面を備えた意味構造を有していた（そして、その点でアルタイ語族系の現在のトルコ語、モンゴル語などと類似していた）のが、ごく早い時期に（文献で確認可能な段階で変化が十分に確認できるような状態になるまでに）この並立が後者（<移行>・<推移>）の側面が明らかに優位に立つという状態になり、以後の日本語の歴史では、もともと<出現・出来>から生じた<自発>の意味合いも、多く<移行・推移>という意味合いに吸収される（そして、それに伴い、<（人には関わりなく）自然生起>という意味から<（人にとっては）制御不能>という意味合いへの変化をはらむ）といった形で現代にまで及んでいる、ということである。その結果、現代の日本語動詞「なる」の生態は、古来の状態をなお十分保持してきていると見えるトルコ語、モンゴル語の場合、それからゲルマン祖語からの状態をなおある程度残している現代ドイツ語の werden や古英語の weorpan などよりは、現代フランス語の devenir や現代英語の become などのそれに近いものになっている。背後で日本語動詞「なる」の意味変化のきっかけとなってきたのは如何なる要因であったのか これはまだ残された興味深い問題である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 池上嘉彦	4. 巻 8
2. 論文標題 「なる」と「いきほひ（勢）」 丸山真男「歴史意識の古層」に寄せて	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『認知言語学研究』	6. 最初と最後の頁 101 - 118
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Yoshihiko IKEGAMI
2. 発表標題 How the 'Coming of Spring' is Differently Encoded Linguistically across Languages: an Intrim Report
3. 学会等名 International Workshop organized by Mutual Images Research Association [MIRA] and Senbazuru Centre for Japanese Studies [SCJS], Cluj-Napoka, Romania (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yoshihiko IKEGAMI
2. 発表標題 The Ecology of the Japanese Verb 'naru' in Crosslinguistic Perspective
3. 学会等名 16th International Conference of the European Association for Japanese Studies (国際学会)
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 守屋三千代・池上嘉彦（編集代表）	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 『「ナルの表現」をめぐる通言語的研究—認知言語学と哲学を視野にいれて』	

1. 著者名 池上嘉彦	4. 発行年 2024年
2. 出版社 ひつじ書房	5. 総ページ数 -
3. 書名 「ナル的表現」と事態把握」守屋・池上代表編集 『「ナル的表現」をめぐる通言語的研究－認知言語学と哲学を視野にいれて』に収録	

1. 著者名 Yoshihiko IKEGAMI	4. 発行年 2024年
2. 出版社 De Gruyter, Berlin	5. 総ページ数 570
3. 書名 'Vision and the verbs of visual perception in Man'yoshu: From mirativity to 'mitate'', in B. Frellesvig and S. Kinsui eds., Handbook of Historical Japanese Linguistics (pp. 405 - 434)	

1. 著者名 Yoshihiko IKEGAMI	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Iudicium Verlag, Muenchen	5. 総ページ数 408
3. 書名 'The Ecology of the Japanese Verb 'Naru' in Crosslinguistic Perspective' in H. Buck-Albulet, M. Oberwinkler, & W. Schaffar eds., Ueber Grenzen hinweg -- Zeichen, Sprache und Kultur in Japan. Festschrift fuer Viktoria Eschbach-Szabo (pp. 217-227)	

1. 著者名 池上嘉彦	4. 発行年 2022年
2. 出版社 開拓社	5. 総ページ数 401
3. 書名 「言語横断的に見た日本語動詞「なる」の生態（中間報告）」『認知言語学の未来に向けて－辻幸夫教授退職記念論文集』（菅井 三実、八木橋 宏勇編）に収録(pp. 2 - 15)	

1. 著者名 池上嘉彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Stauffenburg Verlag, Tuebingen	5. 総ページ数 471
3. 書名 'Homology, Homologization, and the Empathy Center - An Essay in Cultural Semiotics' in Hiroyuki Miyashita et al. eds., Form, Structur und Bedeutung: Festschrift fuer Akio Ogawa (pp. 363-375)	

1. 著者名 池上嘉彦	4. 発行年 2020年
2. 出版社 「日本語は<悪魔の言語>という言説をめぐって 文化的偏見、言語的相対論、文化の多様性との関連での考察」(『言語文化研究所報』35)	5. 総ページ数 123
3. 書名 「日本語は<悪魔の言語>という言説をめぐって 文化的偏見、言語的相対論、文化の多様性との関連での考察」(『言語文化研究所報』35, pp. 4-20)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------